

# Newsletter No.39

一般財団法人 **京都国際文化協会**  
Kyoto International Cultural Association

606-8536  
京都市左京区粟田口烏居町2-1  
京都市国際交流会館 3F

Tel: 075-751-8958  
Mail: [kica@kicainc.jp](mailto:kica@kicainc.jp)  
URL: <http://kicainc.jp/>

## 国際交流のことば

英語を学び始める学年がついに小学5年生まで降りてきた。私学の小学校にはずっと以前から英語教育に力を入れているところが多いとも聞く。今から育つ子どもたちは、国際交流に立ちほだかる「英語のカベ」とは無縁になってくれるのかなと、期待を抱かせもする。

しかし、アジア地域と関わりを続けてきた私には、「うん？」という気持ちもある。学術論文の発表媒体は言うに及ばず、国際ビジネスや国際会議や海外旅行を国際交流というのなら、英語はとうからほとんど唯一の国際交流のことばである。アジアに限らず、英語を母語とする国以外の世界中で、人々は膨大な時間とエネルギーを英語学習に費やしてきた。日本がむしろもっとも遅れていると言えるかもしれない。そしてなお、この非英語国の人々が英語で国際交流することのなんと難しいことか。例えば、少し以前のことになるが、タイの新聞記者数人と日本人数人の間で英語で意見交換する場に出た折、途中で有能な司会者が日・タイの通訳を買ってでたとたん、全員の顔がパッと明るくなり全員が饒舌になった。新聞記者にしてこうである。

もう一つ例を出すと、国や地域による会話体英語の“変異”はあまりにも大きいので、現代風の英語は役に立たないこともある。例えばインド圏は英語に不自由しないというが、あれは、英国人に言わせると“化石化した英語”らしい。そこでは、現代風の口語よりも私たち老人がその昔受験時代に勉強した古風な英語の方がよく分かってもらえたりする。

一人とひとりのつながり、そしてそのペアの輪が広がってゆくような、日常的な国際交流となると、英語だけでは心もとない。どちらかの母国語でないと、本当の会話は成立しないのではないかとさえ思える。私自身の恥を述べると、バングラデシュで永らく仕事し

京都国際文化協会常務理事 海田能宏

てきたのに、歳を言い訳にしてまともにベンガル語を勉強せず英語で通してきた私は、仕事の上では支障はなかったものの、土地の人と心を通わせることができたかどうか自信はない。

一方で、一緒に仕事をした若い研究者仲間や海外青年協力隊の村落隊員たちは瞬間にベンガル語を習得して村びとの心の中にずんずん入っていった。面白いのは、英語の得意な者ほど適応が遅れたように見えたことである。

ここでは、二つのことを言いたい。日本人は英語に弱いと言われ、自分たちもそう思っているフシがあるが、海外の実践の場で働いている人たちは結構頑張って何とかやっている。中学・高校・大学で学んだ基礎さえあれば、その場に身を置けば実践英語はこなせるものだ。もう一つは、相手のことば、いわゆる現地語を学ぶ若者がずいぶん増えてきたことである。真の国際交流は相手の心根を理解すること。相手のことば、自分のことばでやり取りするのが一番だ。英語は必須だが万能では決してない。

さらに、夢のようなことを言わせていただくと、高校や大学時代に、英語に加えて、例えばスペイン語・中国語・マレー語・ヒンドゥー語・アラビア語・スワヒリ語のように流通範囲が広くて応用も効く主要言語のひとつを習得させるような教育が行われると、日本人の英語コンプレックスが薄められると共に、世界観がすっかり変わってきそうでもある。

本協会の活動は、長い年月を経て、かつての英語を介した国際文化交流活動から次第に離れ、日本語教育を通じた個と個の交流、そしてその輪の広がりを目指す活動へと定着したようすである。これもひとつの国際文化交流のゆき方である。

(かいだ よしひろ 京都大学名誉教授・アジア地域研究)

■ 基礎から学ぶ実践日本語教育講座

国際交流基金関西国際センターのご協力で、2012年4月から、スタートしました。段階的に実践的な「日本語」の教え方を学んでいきます。ワークショップ形式や実習を取り入れ、考え、学び合いながら、基礎知識と教え方のコツを学びます。「実践的ですぐ使える」、「レッスンに取り入れた」と好評です。

2013年度 講座カレンダー			
講師:栗原幸則、岩澤和宏(独)国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員			
	I	初級日本語を教えるために	担当: 栗原幸則
	2013	実習パート1	目標: 模擬授業への準備として『みんなの日本語』の文型ポイントを整理する
1	4/6	初級文型整理①	『みんなの日本語 I』 1-5 課の文型ポイントを整理する
2	4/20	初級文型整理②	『みんなの日本語 I』 6-10 課の文型ポイントを整理する
3	5/11	初級文型整理③	『みんなの日本語 I』 11-15 課の文型ポイントを整理する
4	5/25	初級文型整理④	『みんなの日本語 I』 16-20 課の文型ポイントを整理する
5	6/8	初級文型整理⑤	『みんなの日本語 I』 21-25 課の文型ポイントを整理する
	II	初級日本語を教えるために	担当: 6/22-7/20 栗原幸則、9/7,9/21 岩澤和宏
	2013	実習パート2	目標: 模擬授業への準備として『みんなの日本語』の文型ポイントを整理する
1	6/22	初級文型整理⑥	(参加者による模擬授業、『みんなの日本語 II』の教え方)
2	7/6	初級文型整理⑦	(参加者による模擬授業、『みんなの日本語 II』の教え方)
3	7/20	初級文型整理⑧	(参加者による模擬授業、『みんなの日本語 II』の教え方)
4	9/7	初級文型整理⑨	(参加者による模擬授業、『みんなの日本語 II』の教え方)
5	9/21	初級文型整理⑩	(参加者による模擬授業、『みんなの日本語 II』の教え方)
	III	中上級授業の実際	担当: 岩澤和宏
	2013		目標: 「中上級日本語」を外国語として捉える。日本語教師の役割を再認識する
1	10/5	授業例「読む」	初級から中級に繋げる読解授業例を学ぶ
2	10/26	授業例「書く」から「話す」へ	スピーチ作成の授業例を学ぶ
3	11/2	授業例「話し合う」	文化を取り込んだ授業例を体験する
4	11/16	授業例「聴く」	聴解授業を体験する。視聴覚教材を学ぶ
5	11/30	教材案を考える	「京都」をテーマにした教材を考え、発表する
	IV	初級日本語を教えるために	担当: 岩澤和宏
	2014	実習パート3	目標: 各課の言語行動目標を理解し、指導上の間違いやすいポイントを整理する
1	1/18	異文化理解①	学習者の文化的背景を理解する重要性を知る
2	2/1	初級文型整理①	(『みんなの日本語 II』26-30 課と指導教案の事例を考える)
3	2/15	初級文型整理②	(『みんなの日本語 II』31-35 課と指導教案の事例を考える)
4	3/1	異文化理解②	学習者の文化的背景を理解する重要性を知る
5	3/15	初級文型整理③	(『みんなの日本語 II』36-40 課と指導教案の事例を考える)

共催: 京都市 後援: 京都府、(独)国際交流基金、(公財)京都市国際交流協会

会場: 京都市国際交流会館 3F 研修室  
 時間: 隔週土曜日 10:00~11:55  
 費用: 当協会年会費 ¥5,000  
 教材費 I期 ¥5,000 II期 ¥5,000  
 III期 ¥5,000 IV期 ¥5,000

2012年度 「基礎から学ぶ実践日本語教育講座」受講者数				
	I期	II期	III期	IV期
受講者数(人)	43	50	40	27

## 2012年度講座を振り返って

中込達也  
国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員



講座開講から遡ること半年、実践的な一年間の日本語教育講座を新たに開講したいというお話を伺いました。日本語教育に携わったことのない方でも、「すぐに役立つ知識と教師の技能」を20回分の授業に凝縮しようと策定したのが2012年度版「講座」です。

講座では、出来るだけワークショップ形式を取り入れて、アイデアもたくさん共有できました。毎回、受講生の方々からの鋭いご質問やご意見を基に、次の講座内容を修正し続けた一年でした。言わば、この講座は受講生の方々との共同作品です。

日本の魅力に溢れた京都での日本語教育はますます発展していくことと思います。今後も、より実践的な役立つ講座を受講生の皆さんと共に形作っていききたいと思います。

2013年度「基礎から学ぶ日本語教育講座」  
コース全体の目指しているところ

栗原幸則  
国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員



本講座では現場で役立つ文型資料を基にその使い方・教え方を参加者のみなさまに体験していただきたいと考えています。具体的には、まず教え方の実際をお見せし、次に同じように教え演じていただくことで、学習者に出す指示の言葉や進め方のテンポなど細かな点を感じ、気づいていただければと思います。

また、言葉の教え方についても、参加者と共にやさしい言葉への言い換えや例文などを見せ合い情報交換しながら高め合って行ければと思っています。

そして、初級だけではなく、中上級の授業についても「読む」「書くから話すへ」「話し合う」「聴く」「異文化理解」などに関して触れながら授業の実際について考えたいと思います。

## 『基礎から学ぶ実践日本語教育講座』を受講して

中村陽子

1年間に渡り開催された『基礎から学ぶ実践日本語教育講座』を受講しました。内容はタイトルのとおり実践的なもので、毎回テーマとなる文型やキーワードの提示がありました。それらのテーマに沿った実践的技術のお話が有益だったのはもちろんのことですが、何より興味深かったのは、経験豊かな講師の方が、日本語教師やその卵であっても講習中は受講生である私たちに対される際のインストラクションの技でした。例えば、私たち受講者の意識を集中させるために今一瞬どんな間を取られたか、さっきの一見雑談は場をあたためるためと思いきや次への導入だったのか等、それらを見逃すまいと、恐らく受講中の私の目はキラキラとしていたのではないかと思います。そしてこの先生方の日本語の授業を受ける人たちは、同じように目を輝かせ集中されるのだろうと思うのです。高い教師力とオリジナリティあふれるインストラクションを生で体験できたことが何よりの収穫です。

✕ 2013年4月6日、さらに練られた「基礎から学ぶ実践日本語教育講座」2年目が始まりました。  
ご参加お待ちしております。

## ■ 国際茶会

10月20日秋晴れの土曜日、裏千家茶道会館において国際茶会が開かれました。300人余りの関西在住の研究者や留学生、その家族の方々が招かれました。日常の慌ただしさから離れ、茶道留学生グループ「みどり会」による薄茶点前をいただきながら、静かなひとときを過ごしました。



写真提供 裏千家

■ 「やさしい日本語」教室

1989年京都市国際交流会館の開館と同時に日本語教室が開講され、主催者の京都市国際交流協会の依頼を受けて、教材開発と講師派遣を担当し、25年目になります。

クラスは2レベルあり、年4期、各期3か月12回のコースです。在外外国人の方々の日本での生活、地域の人たちとの交流・相互理解の一助になることを目標にしています。学習者は京都という土地柄を反映して、学生・研究者・芸術家などが多いのは当初から変わりませんが、最近是一般の会社員や日本人配偶者・子弟で永住するつもりの方も増えてきました。また日本語学習を滞在目的に組み込んだ観光客や短期滞在者などもおられます。

2013年度スケジュール（各期12回、毎週金曜日）

- 第1期：4月5日～6月28日
- 第2期：7月～8月
- 第3期：10月～12月
- 第4期：2014年1月～3月

入門 午後1時半～3時半、6時半～8時半  
 初級 午後6時半～8時半  
 場所：京都市国際交流会館会議室  
 費用：各期6,000円  
 問合せ先：(公財)京都市国際交流協会  
 Tel: 075-752-3511  
 または当協会 (Tel: 075-751-8958)まで



やさしい日本語教室風景

■ 国際交流プログラム

日本語ボランティア・レッスン

「基礎から学ぶ実践日本語教育講座」修了者の中から日本語ボランティア登録をしていただき、学習者とボランティアの条件を考慮しながらお世話をしています。レッスン内容・場所・時間は、学習者とボランティア双方の希望や都合で決めていただいておりますが、レッスンは主に、当協会事務局、または国際交流会館1階ロビーで行っています。



大学入学を目指して日本語を勉強しているアントニオさんとボランティアの澤木さん



日本の新聞を読んでいるジュリオさんとボランティアの駒井さん

日本語能力試験に挑戦する学習者さんたち  
 日本語ボランティア SK

この2月、帰国して1年以上になるRさんAさんから日本語能力試験に合格したと喜びの便りが届きました。帰国してからも勉強し続けて目標をやり遂げられたことに私の方が励まされたうれしいニュースでした。

日本語能力試験は語彙、文法、読解、聴解と総合的な勉強が必要です。週1回90分のレッスンで全てに亘って学習することはできないので、私は聴解と音読を大切にして学習を進めています。聴解問題の会話は東京言葉で、関西に住む学習者には聞きなれない会話です。問題集付属のCDをできるだけたくさん聞いて会話になれるようにしています。音読は問題の内容理解を深める上で大事だと思いますし、わたしの方も学習者のつまずきを把握しやすく間違いを指摘することができます。レッスンの時間内にできない課題については宿題として自主学習し、わからない点の質問に答えるという形で進めています。

日本語能力試験に挑戦される方はみな、学習意欲が高く、仕事や勉学の合間を縫って、日本語を勉強されている努力家です。そういう学習者の方のお手伝いが少しでもできるようにと私自身も学びながらレッスンをしています。

※日本語レッスンをご希望の方は、当協会までご連絡ください。

お問合せ先 Tel: 075-751-8958  
 E-mail: kica@kicainc.jp

ボランティア・レッスン状況 (2013年3月現在)		
ボランティア数(人)	学習者数(人)	国数(カ国)
17	31	16

(ボランティア数：3月現在活動人数)

## 色鉛筆教室

月1回、土曜日または日曜日の午後に行っています。先生はKICAのボランティア・レッスンで日本語を勉強しておられるティツィアーナ・サンタニエッロさんです。ティーブレイクをはさみ、和気あいあいと楽しく描いています。

✕ 色鉛筆教室参加者募集中！



(古澤智子 画)



## ■ KICA セミナー

セミナーでは、毎回、日本語教育・異文化間交流、日本文化等の専門家をお招きしてご講演いただいています。時代のニーズに合う、具体的・実践的な内容で、ワークショップ形式のものもあり、好評です。

### 第1回 2012年9月22日(土)

講師: 山梨正明 京都大学人間・環境学研究所教授  
テーマ: 「認知言語学から見た言語教育の展望」

言語学の新しいアプローチである認知言語学の観点から、日本語と英語の発想の違い、母国語と外国語の習得のメカニズムの違い、言語の普遍性と個別性の問題、そして、今後の日本語教育と外国語教育の新たな探求の方向についてお話しくささいました。

### 第2回 2013年1月14日(月)

講師: 大久保雅子  
早稲田大学日本語教育研究センター  
テーマ: シャドーイングによる効果的な発音指導の方法

シャドーイングにはどんな方法があるのか、どのように指導すればいいのか等、シャドーイングを授業に取り入れるノウハウをお話しくささいました。

実際に授業をしてくださったので、参加者は、学習者の立場でシャドーイングの体験ができました。シャドーイングの発音指導での活かし方や、日々の発音指導のヒントが得られたと思います。

### 第3回 2013年2月2日(土)

講師: 磯村一弘 国際交流基金  
日本語国際センター専任講師  
テーマ: 日本語学習者への発音指導について考える

学習者ができるだけ自然な発音で日本語を話せるようになるにはどうすればよいか、具体的な方法をご紹介くささいました。また、日本語教師が「音声を教える」際に行き当たるさまざまな疑問についてもお話しくささいました。

### 第4回 2013年3月17日(日)

講師: 山梨正明 京都大学人間・環境学研究所教授  
テーマ: 日本語教師のための認知言語学

今年度の第1回セミナー(9月22日)に参加されたみなさんのご要望に、山梨先生がお応えくださり、午前10時から午後4時半までという一日特別セミナーが実現しました。

日本語教育、外国語教育、言語発達等の関連分野(ないしは応用分野)の領域にも、重要な知見を提供する言語理論として、国際的に注目されてきている認知言語学ですが、現時点では、その基本的な概念、理論的な枠組み、方法論を日本語教育等の関連分野の研究者、教育者に具体的に解説する入門書が限られています。セミナーでは、認知言語学の重要な基本概念とその適用の方法を易しく解説してくささいました。専門用語が次々出ましたが、先生のお話は面白くよく分かり、時に笑い声が上がる楽しいセミナーでした。



山梨正明先生

## 「基礎から学ぶ認知言語学講座」を受講して 横井初子

今までチョムスキーの生成文法には少し触れたものの、認知言語学という新しい見方があることを始めて知って、大変衝撃を受けました。日本語教師として今までは外国人に教える為の日本語の文法を身につけ、わかりやすいと思われる教え方を考え、文化の違いを考慮に入れながら日本語指導をしていくのが良いと思っていた私は、その前に理解すべきものがあるのを知りました。語や文法の誤使用は意味や使い方が身につけていないのではなく、その言語の語彙使用の視点の違いから来るものでもあるということです。また新しい言語の世界が見えてきました。まさに目から鱗でした。

また、山梨先生のお話は難しいと聞いていましたが、初心者でも理解でき、そして面白くお話しくささいましたので、「認知言語学」というものにたいへん興味を持つようになりました。ありがとうございました。

### 2012年度セミナー参加者数

	第1回	第2回	第3回	第4回
参加者数(人)	33	32	29	43

## ■ 第35回エッセーコンテスト 《私の見た日本と世界》

今年度も11月18日、6名の入賞者を錦繡の京都にお迎えして滞りなく開催することができました。

### 日本語の部

27編の応募作品の中から予備審査によって選ばれた3名が口頭発表し、審査員や聴衆との応答ぶりをも加味して最優秀賞1名と優秀賞2名が次のように決まりました。

最優秀賞	<b>マラル・アンダソヴァ</b> (カザフスタン)
	「私の原点—『古事記』という『日本』」
優秀賞	<b>クレア・サマーズ</b> (イギリス)
	「私の目から見る日本と外国」
優秀賞	<b>任 穎</b> (中国)
	「花一輪—和の姿」

最優秀賞のマラル・アンダソヴァさんは、日本に留学し『古事記』に魅かれて研究の道へ進み、今は京都の佛教大学大学院を終えようとしているところ。『古事記』の神話と向き合うことにより今まで感じたことのない面白い世界へ導かれ、世界とは何だろう、自分とは何だろうと自問する日々だ、というお話しをされ、審査員からの質問にも的確に答え、聴衆みんなを驚かせました。



発表するマラル・アンダソヴァさん

優秀賞のクレア・サマーズさんは、筑波学院大学で日本語を学ぶ主婦。ダライ・ラマの詩『現代の矛盾』を引きつつ、発展途上国の人々が持っている、先進国の人々が持っていないもの—人と人との絆—をつくるにはどうすればいいのか、というテーマについて素敵な話術で語りかけてくださいました。



クレア・サマーズさん、マラル・アンダソヴァさん、任穎さん

優秀賞の任穎さんは、広島大学に留学して初年目

です。来日間もない頃、寂しさを紛らしてくれたのが池坊の生け花だった。花を手にし、生けることに心を集中し、日常の悩みから解放され、美の世界に入る、それは神秘的な世界だ。生け花を通して見た日本の美、そして伝統文化の力について、初々しく話してくださいました。

### 英語の部

52編の応募の中から同じく予備審査によって選ばれた3名が口頭発表し、以下のようには決まりました。

最優秀賞	<b>Michael Ryan Smith</b> (U.S.A.)
	“A Tohoku Journal”
優秀賞	<b>Maarten Gerkes</b> (Netherlands)
	“To What Extent is Japan Now a Normal State in terms of its Foreign Policy?”
優秀賞	<b>Thekla Boven</b> (Belgium)
	“Neither West nor East, but Somewhere in Between”

最優秀賞のMichael Ryan Smithさんは、働きながら京都大学人間・環境学研究科に籍をおく若手研究者。東北被災地でボランティア活動を重ねています。その体験を日記風の文章にし、ボランティア活動は労働奉仕ではなくて、要諦は被災者の心に寄り添うことと実感し、むしろ被災者から励まされている自分を発見した、と語りかけました。



発表する Michael Smith さん

優秀賞のMaarten Gerkesさんは、横浜でマスメディアを学ぶ留学生。戦後日本の安全保障、国連外交、対アジア経済外交、湾岸戦争支援、AMF、靖国問題、教科書問題など対外政策をレビュー。憲法改正の動きなどを認めつつも、日本は世界標準から見ると“まだノーマル”な国とは言いがたい、と主張しました。

もう一人の優秀賞のThekla Bovenさんはベルギー人の父とフィリピン人の母を持ち、洋の東西を日常的に行き来しています。現在、東京で建築学を学ぶ大学院生。人は「場」の影響を受け、また同時に「場」を変えてゆく。その意味で、東西の多くの文

明・文化を受け入れてきた日本、とくに東京は、もう十分にインターナショナルだ。すべてがグローバル化するいま、我々はみな国際コミュニティの中の同じ「場」にいることに気づくだろう、と論じました。なお、6編のエッセーの全文は、当協会のホームページに掲載しています。2002年度以来のすべての入賞作も掲載していますので、どうかご覧いただきたく思います。



左から審査員の Craig Smith 先生、Maarten Gerkes さん  
Michael Smith さん、Thekla Boven さん

✳ 入賞者のエッセーは、HP (<http://kicainc.jp/>) に掲載しています。

## KICA エッセーコンテストについて

ここで、今回第 35 回を迎えた KICA エッセーコンテストについて少し補足説明をします。例年《私の見た日本と世界》をメインテーマとして、日本に住まう日本語を母語としない人たちから日本語あるいは英語のエッセーを全国公募しています。予備審査によって入賞作品日・英各 3 編を選び、京都において市民を集めて公開の口頭発表会兼最終審査会を行い、優秀作品の作者を表彰してきました。今年度の新たな試みとして、京都府下で学び、働きあるいは住まう日本人からも英語エッセーを募集しました。

その公募要項やポスターは、5 月連休直後に、全国の大学の国際交流センター等、留学生支援機関、国や都道府県の国際交流機関、主な在外公館、その他国際的に活動する研究所・文化団体など、約 400 箇所に送りました。この内、とくに京都府下の大学には網羅的に送りました。上の他にも、当協会の理事・評議員・法人維持会員・一般会員、日本語教育講座・セミナーの講師陣、それに京都商工会議所と京都青年会議所にも応募の斡旋方を依頼しました。

9 月 15 日に締めきったところ、今年は応募総数 79 編、内日本語 27 編、英語 52 編。応募者の多くは留学生や若手研究者らでしたが、少数ながら在日経験の長い知日派外国人も含まれていました。今年はじめて設けた日本人による英語エッセーの部は、残念ながら 6 編の応募しかなかったため、別カテゴリーは設けませんでした。日本語と英語に分けて各 6 名からなる審査委員会を設け、10 月 14 日に審査委員が相集って入賞作品各 3 編を選考、11 月 18 日に作者 6 名を招き、京都市国際交流会館特別会議室において口頭発表会並びに最終審査会を開催しました。来聴者は日本語の部と英語の部各 50 名前後、延べ 100 人ほどでした。

なお、本コンテストは、協賛団体として京都ライオンズクラブ、そして後援団体として京都府・京都市・京都市国際交流協会・国際交流基金京都支部・京都商工会議所・京都青年会議所・NHK 京都放送局・京都新聞社・朝日新聞京都総局・読売新聞京都総局・池坊華道会・(株)淡交社・(株)スリーエーネットワークからご支援をいただいています。



懇親会で歓談する  
入賞者と参加者

## 2013 年度のコンテストについて

2013 年度は、35 年間の慣例を破ることにはなりますが、外国人による日本語エッセーだけを募集し、英語エッセーは除外することとします。その理由は、この 35 年の間に日本語話者が圧倒的に増えたこと、英語で投稿する方々の中にも日本語の達者な人が多いこと、また、高度な内容の英語を聴きとって即座に質疑応答するのはやはり難しく口頭発表会の英語の部が比較的低調であったことなどによります。しかし、英語エッセーを掲載できる媒体を確保できれば、「読むエッセー」として募集を再開したいと思います。

■ 当協会の運営を支えてくださっている団体・個人

■ 協会役員

名誉顧問 千 玄 室  
 理事長 児 玉 實 英  
 評議員 岩 橋 忠 昭 小 林 哲 夫 柴 田 重 徳  
 仁 田 一 明 畑 正 高 二 股 茂  
 松 田 和 典 南 惠 美 子 森 純 一  
 理 事 大 野 嘉 宏 海 田 能 宏 加 藤 久 雄  
 黒 田 益 代 クレイグ・スミス 白 石 厚 子  
 高 木 路 子 田 中 耕 司 畑 肇  
 廣 瀬 和 子 松 井 雄 森 金 次 郎  
 監 事 栗 津 宣 之 長 谷 川 彰  
 顧 問 稲 盛 和 夫 井 上 利 丸 大 倉 治 彦  
 柏 原 康 夫 北 川 善 太 郎 金 剛 永 謹  
 立 石 義 雄 村 田 純 一 森 田 嘉 一  
 参 与 荒 木 不 二 洋 猪 野 愈 玉 村 文 郎

水野美子 南惠美子 宮下雅代 宮地法子  
 村上裕子 村田美佐子 本山成郎 森金次郎  
 森 純 一 森 吉 彦 山田順子 山本彩加  
 横井初子 吉賀あさみ 吉村紀雄 渡辺克広  
 渡辺幸子 和田美和子 和田康子

■ 協力者

司法書士法人 絆 オフィス・ディー 藤井幸広  
 創作集団にほんご

■ 共催・後援団体

京都府 京都市 NHK 京都放送局  
 京都ライオンズクラブ (独) 国際交流基金京都支部  
 (株) 松 栄 堂 (株) スリーエーネットワーク  
 (株) 淡 交 社 (株) 日本語の凡人社

■ スタッフ

荒木千枝子 伊藤紀美江 今井菜穂子 入江由美  
 海田礼子 白石厚子 高木路子 河 英 伊  
 久富千鶴子 廣瀬和子

■ 法人維持会員

(一財)池坊華道会 オムロン株式会社  
 ガリオア・フルブライト京滋同窓会 京セラ株式会社  
 京都外国語大学 (株)京都銀行 京都信用金庫  
 月桂冠株式会社 (財)今日庵  
 サントリーホールディングス株式会社 (株)松栄堂  
 (株)淡交社 (一財)不審菴 佛教大学  
 村田機械株式会社 (株)ワコールホールディングス

■ 会員

相 田 剛 浅 田 恭 子 安 部 田 幸 子 荒 木 千 枝 子  
 荒 木 不 二 洋 アピチャート・カーナムニ 池 田 陽 子  
 伊 藤 紀 美 江 井 上 章 子 今 井 菜 穂 子 入 江 由 美  
 岩 橋 忠 昭 上 田 尚 子 上 野 和 美 上 羽 淑 枝  
 遠 藤 雅 一 遠 藤 優 子 生 石 文 代 大 泉 智 賀 子  
 大 住 倫 美 大 塚 健 太 郎 海 田 能 宏 海 田 礼 子  
 加 藤 剛 加 藤 寛 子 河 合 瑠 美 子 河 村 嘉 子  
 北 川 善 太 郎 木 崎 晴 美 木 村 富 士 子 京 都 新 聞 社  
 金 美 花 クレイグ・スミス 黒 田 益 代 児 玉 實 英  
 小 林 繁 代 小 林 哲 夫 駒 井 節 夫 坂 牧 藍  
 財 間 敬 子 相 模 真 知 子 坂 本 真 司 澤 井 弘 子  
 澤 木 福 男 塩 寄 弘 子 柴 田 重 徳 柴 山 尚 之  
 白 石 厚 子 白 神 睦 子 白 崎 陽 子 志 和 晃 二  
 末 満 健 二 高 木 路 子 高 田 啓 武 内 彩  
 竹 谷 妙 子 田 附 房 子 田 中 耕 司 田 中 富 美 子  
 田 辺 博 恵 玉 村 文 郎 田 村 礼 子 反 保 良 子  
 辻 加 代 子 土 屋 彰 子 鶴 屋 吉 信 内 藤 純 子  
 中 田 幹 人 中 原 千 波 中 村 早 苗 中 村 昌 敏  
 中 村 陽 子 西 尾 恵 美 子 西 田 ふ み 江 西 本 道 子  
 河 英 伊 拝 師 照 代 長 谷 川 彰 長 谷 川 文 子  
 畑 肇 林 美 木 子 坂 野 藍 子 久 富 千 鶴 子  
 廣 瀬 和 子 深 井 よ う 子 古 澤 智 子 舞 田 滋 子  
 前 川 和 也 松 下 享 代 松 嶋 洋 子 松 田 和 典  
 松 村 知 子 丸 池 暢 穂 水 野 あ づ さ 水 野 幸 子

編集後記

京は花の季節になりました。疏水の桜も満開で、国際交流会館周辺は美しい花を愛でる人々でにぎわっています。

本法人は、2012年4月より一般財団法人京都国際文化協会に移行し、新たな役員の体制でスタートを切り、従来からの京都やその近郊に住む外国籍の人々への日本語学習支援や国際交流プログラムの提供に引き続き努力し、本年も予定していた事業の全てを無事に終えることができました。ここにその報告かたがたニューズレター39号をお届けします。

会員をはじめ当協会の活動にご支援・ご協力いただきました皆様方に深く感謝いたしますとともに、今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

一般財団法人 京都国際文化協会

〒606-8536

京都市左京区粟田口烏居町 2-1

京都市国際交流会館 3F

Tel: 075-751-8958

Mail :kica@kicainc.jp

Fax:075-751-9006

URL :http://kicainc.jp/

理事長 児玉 實英